蝶と蛾 *Tyô to Ga*, **34** (3): 131–132, 1984

ムラサキシジミの配偶活動に関する小観察

三　枝　豊　平

九州大学教養部生物学教室
〒810 福岡市中央区六本松

An Observation on the Mating Activity of *Narathura japonica* (MURRAY) (Lycaenidae, Theclinae)

Toyohei SAIGUSA: Biological Laboratory, College of General Education, Kyushu University, Fukuoka, 810 Japan

シジミチョウ科ではミドリシジミ族 Theclini の雄の日周活動性に関する記録が多いが，ムラサキシジミ族 Arhopalini の配偶活動はあまり注目されていない．筆者は1982年6月20日に福岡市中央区六本松の九州大学教養部構内で，ムラサキシジミ *Narathura japonica* (MURRAY) の探雌活動と交尾を観察したので，簡単に報告する．

構内東側縁には市街地を隔てる一車線幅の道路があり，これに沿って，構内にクスノキの大木や，クロマツ，アラカシ，クロガネモチ，ケヤキなどが植えられ，さらにその内側に約 20 m にわたって，高さ 3 m 位のサンゴジュの生垣がある．観察日の夕刻17時50分頃，ムラサキシジミの♂と思われる3頭がこの生垣の上を静止することなく，活発に飛翔していた．飛跡は，サンゴジュの上部すれすれに飛んでから，それより高いアカガシやクロガネモチの梢や中部の枝上を，これまたすれすれに飛んで，ふたたびサンゴジュに帰ってくることの繰返しであった．このような活動をしている個体どうしが接近すると，木立ちの上縁に沿ったり，時には上空に向かって追跡飛翔を行うが，これは間もなく中止されて，たがいにそれぞれもとの飛翔にもどった．

これらの個体は小枝や葉上の静止♀をたんねんに探し出すような行動を全く示さなかった．17時55分に，アラカシの小枝上をゆっくりと飛んでいる第4の個体が現れ，これを前記3頭の活動個体の1頭が追跡しはじめた．後者が前者を追い続けるかたちで，約30秒間，木の梢や中間部位の枝上をかなり迅速にほぼ直線状に飛翔していたが，しまいにアラカシの枝がやや入りくんだ部分（地上約 2 m）の葉上に両者とも静止した．静止直後に前者（♀）は下方を向き，これと同時にその右側に後者（♂）が静止し，ただちに腹部を♀の方へ強く曲げて，♀の腹端部を探り，交接して交尾にはいり，間もなく両者は反対方向を向いて（♂が上方を）交尾の体位に移った．この間約3秒を要した．

18時5分に活動個体の残りの2頭の内の1頭が，近くをゆるやかに飛翔していた第5の個体を追跡しはじめた．これも約20秒にわたって前のペアと同じような梢や枝上の空中追跡飛翔をした後に，クスノキの葉上（地上約 8 m）に静止した．地上から著しくはなれていて，この場合の詳細は観察できなかったが，以後数分間にわたって，その場から飛び去ることがなかったので，ここでも交尾が行われたと推測してよいと思われる．

はじめのペアは，交尾約10分ぐらいたってから，内径 17 cm の飼育瓶にとりこんだところ，この中であばれて，両性は離れてしまった．この♀は，右の下唇鬚の第2節以端が欠けて，腹端部の側面部の鱗粉もかなり剝げ落ちており，この状態から判断すると，羽化直後の新鮮な個体とは考えられない．そこで，この♀の腹部を解剖したところ，8本の卵巣小管はいずれも発達しており，その内2本にはほぼ成熟した卵と，排卵直後の黄体が，6本には成熟卵の3/4位の大きさ（径）の未成熟卵と，かなり萎縮

した黄体が見られ，共通輸卵管の中には2個の成熟卵が排卵されていた．また，交尾嚢の中には大形の精包1個が入っており，この個体がすでに少くとも1回は交尾し，かなりの産卵を行ったものであることが明らかになった．

以上の事実から，少くとも本種の♂は夕刻には一定の好適な活動空間の樹上を巡回探雌する探雌活動を示すこと，既交尾♀はある程度の♂の追飛行動を受けてから静止して♂の求愛を受けいれること，直接の交尾行動の前には目立った display が見られないこと，また，♀は複数回交尾する場合があることがわかった．しかし，第1のペアの交尾が完遂するものであったか否かは，人為的に交尾を中断させてしまったので，わからない．

なお，本種の探雌飛翔は，Theclini で従来知られている活動型の中では，ウラキンシジミ等の徘徊型にやや似ているが，本種の場合はほぼ一定の短いルートをくり返し飛ぶ点と，静止中の♀を探し出すような行動をまったく示さず，飛翔個体を追跡する点で特異であるといえよう．